

ME室

技士長 高室 昌司

ME室の歩み

ME室は平成2年の11月に一部門として独立しました。当時はまだME室という独立した部署がある病院は珍しく、非常に画期的な事でした。

その後間もなくして、2名ほど技士が増えましたが、まだ透析の業務を行うだけであり、その後、心臓外科OPENを機に、OP室での業務とICUでの業務が加わり、さらにカテ室での業務も、と現在のME業務の様相を呈してきた時期でもありました。当時は、開院してまだ間もないということもあり看護師さんの数も非常に少なく、ICUなどは3西病棟（循環器病棟）の看護師さんが1名で兼務されておりました。このような非常事態の中で当時の院長先生から、「MEはICUで、患者さんの手でも握っとれ〜」っと御指示があり、看護師さんが他の患者さんを看てる間はMEが代役を勤めていたりしたものでした。その後も徐々に業務の幅を広げていき、皆様方のご理解を得て“ME室独立”に相成りました。臨床工学技士という資格は当時はまだ歴史が浅かったということもあり、今の様には認知されておらず、そういった中でも当院が他の施設より先駆けてMEとして独立させて頂いたことは非常に名誉なことでもあり、また喜ばしいものでもありました。その後も、内視鏡・高気圧酸素治療などの業務にも関わることができ、“general”なMEとして確立していくこととなりました。今では総勢32名、うち女性が三分の一を占め、女性にとっても働き易い職場になるよう心掛けております。また、2010年の9月に新病院（岡本）に移転し更に業務も拡充し、関連施設への応援や研修など、幅広く活躍する場を与えられております。また、海外での活躍としてアフリカ、東南アジア、東ヨーロッパでの医療支援に参加し貴重な経験をさせていただいております。

今後も今まで培った経験、またこの置かれた環境

を生かし、患者様に最善の医療が提供できるよう他の医療スタッフとも協力し合い頑張っていきたいと思っております。

2015年 ME室学会発表

1. 千々和祐大：ベースマップ波形の極性が左脚ブロック型から右脚ブロック型に変動したCRT-D埋め込み後の1例. 医工学治療学会, 広島, 2015, 3.
2. 福壽彰：経カテーテル的大動脈弁置換術における体外循環を経験して. Jascet関東甲信越地方会, 箱根, 2015, 4.
3. 猪俣隼人：酸素ボンベの安全教育に携わって. 日本臨床工学技士会, 福岡, 2015, 5.
4. 種山かよ子：透析液濃度の精度管理～測定機器の管理体制変更～. 日本透析医学会, 横浜, 2015, 6.
5. 佐々木菜摘：高血圧酸素療法における高血圧の指標, 脳卒中治療研究会, 大磯, 2015, 7.